3人が語る、わがまち神栖

Kamisu city 20th Anniversary

今回は3つの世代の市民3人に登場してもらい、合併への思い、この20年で
心に残っていること、まちの魅力、将来への期待など、いろいろ聞いてみました。
神栖市民同士、皆さんの思いや経験と重なる部分があるかもしれません。

心に根付いた地元愛

赤松（あかまつ）　大和（ひろかず）さんの20年

大野原で生まれ育ち、結婚後の新居も大野原。太田地区のガソリンスタンドに勤務する自動車整備士。35歳。

Q 神栖市が誕生した2005年は何をしていましたか？

中学3年生で受験を控えていた年です。当時は、「まちが大きくなるのかな」というざっくりしたイメージしかありませんでしたが、抵抗感はなく、むしろ一体化するのは良いことだと思っていました。翌年4月に神栖高校に進学し、私たちが神栖市になって最初の入学生でした。その年から制服が変わり、ちょっと新鮮な気分でした。

Q この20年を振り返り、印象に残る出来事は？

やはり東日本大震災です。ちょうど成人式の年で、ガソリンスタンドに勤めてまだ1年経たない頃です。あの時のことは今でも鮮明に覚えています。職場から一旦帰宅する途中、朝は通れた道が一部陥没して通れなくなっていてショックを受けました。夕方スタンドに戻って発電機を繋いで夜中まで給油をしました。翌朝も給油待ちの渋滞ができていたので、災害復旧に携わる方を優先しながら給油に当たりました。自分はライフラインを支える仕事をしているのだと、改めて実感した出来事でした。

Q 神栖市で好きな場所は？

私にとって神栖を感じる風景といえば、コンビナートに立つ赤白の煙突。すずらん通りをドライブすると見えてくる工場夜景は、結婚前に妻と一緒によく眺めたお気に入りの風景です。もう一つは神栖のシンボル的存在の港公園。今は利用休止中ですが、もう一度あの展望台にのぼりたいですね。

Q 神栖市の魅力は？

住む人の味方でいてくれるまち、それに尽きます。届出や申請などで市役所を訪れると、こちらの意図を察して親切に対応してくれますし、まちなかで必要だなと思う場所にガードレールが設置されるなど、常に住んでいる人の目線で動いてくれていると感じます。至れり尽くせりでありがたいと思うことが多く、本当に不満がないんですよ。だから生涯、神栖に住み続けるつもりです。これからもずっと、人にやさしいまちであり続けてほしいです。

※固有名詞などは本人回答原文ママ

転勤先への定住を決めて

菅野（かんの）　栄子（えいこ）さんの20年

宇都宮市生まれ。夫の転勤に伴い2001年に土合地区に転入。定住を決めて家を建て、お子さん3人を育てる。学校介助員。53歳。

Q 土合地区で暮らし始めた時の印象は？

夫の転勤でたまたま神栖に来たので、定住することは想像もしておらず、最初は社宅住まいでした。忘れられないのは、波の音に衝撃を受けたこと。朝窓を開けると“ゴォー”と轟音のような音がして、何とも不思議な感覚でした。いざ暮らしてみると、何よりも夏涼しく冬は暖かい気候が過ごしやすく、自然豊かで静かな環境は住むにも子育てにも最高だと実感したんです。土地の安さにも背中を押されて2003年に家を建て、その2年後に町が合併して神栖市となりました。

Q どのような20年を過ごしましたか？

海が近くにあるだけで贅沢な感じがして、子どもたちが小さい頃はよく砂浜で散歩をしたり貝殻を拾ったりして遊びました。また、夫が昔から鹿島アントラーズのファンで大のサッカー好き。息子たちも小学生から高校生までサッカーをしていて、鹿島サッカースタジアムにもしょっちゅう観戦に行っていましたね。私は地元の皆さんから声をかけていただき、長男の小学校の読み聞かせの会から始まり、PTA役員、学校評議員、地区の役員などいろいろ参加しました。地元出身じゃなくても少しずつ世界が広がって友人がたくさんでき、とても楽しく生活してきました。

Q 神栖市でやってみたいことは？

今まで見たことがなかった水上スキーやアルティメットを、ぜひ観戦してみたいですね。広報かみすで紹介されている記事を読んで、市内で大会が開催されていたことや、これから開催されることを知り、興味を持ちました。神栖市に住んでいるとまだまだ新しい体験ができそうです。

Q 将来、どんなまちになってほしいですか？

20年とか30年先には、私たち夫婦も車の免許返納を考える年齢になります。その時に、例えばコミュニティバスだけで不自由なく生活できるなど、車を運転しなくても住みやすいまちであってほしいと願っています。

発展を願い未来を思う

塙（はなわ）　展道（ひろみち）さんの20年

奥野谷で生まれ育ち、30代の頃から合併推進や商業の活性化など、長年まちづくりに奔走してきた。衣料品店社長。64歳。

Q 平成の大合併を、当時どう受け止めましたか？

1995年ごろから、鹿嶋市・神栖町・波崎町の合併を促進しようと活動してきました。そもそも鹿島開発は県東南部の中核都市を目指すプロジェクトで、その将来展望に沿うのが1市2町の合併だったからです。地域の子どもたちの将来のために、我々の世代がやり遂げたいという思いが強かったですね。私は神栖青年会議所(JC)の理事長として、鹿島・波崎のJCメンバーと一緒に、仕事そっちのけで署名集め、企業労組との懇談会、シンポジウム、県庁への働きかけ、看板設置など昼も夜も走り回りましたが、結果的に神栖と波崎だけの合併となりました。

Q 神栖市が誕生し、どういう変化がありましたか？

合併翌年には、旧2町の商工会、法人会、PTAなどが一つに統合されました。また、地元の商店で買い物をしてもらえるよう、ポイントカード会の加盟店を全市に広めたり、市制10周年記念で誕生した「カミスココくん」をプリントしたTシャツとポロシャツを衣料品店会で制作・販売したりしました。カミスココくんは神栖市の認知度を高めようというキャラクターですから、私の会社では他にもマスク、タオルなどいろいろなグッズを手がけています。

Q 神栖市で好きな場所は？

小さい頃から泳いだり遊んだりしてきた神之池緑地ですね。最近ではカヌー競技の会場として注目され、スターバックスコーヒーができて、桜を中心に再配置計画も始まるなど、これからもっとたくさん人が集まる場所になりそうです。長年、花火大会の会場でしたが、今年から息栖神社正面の常陸利根川に移ることになりました。市制20周年記念の第50回花火大会ということで、協賛金集めに尽力しています。

Q 将来、どんなまちになってほしいですか？

子どもや孫の世代が住みやすいまちになってほしいです。平成に続き“令和の大合併”もあるのではないでしょうか。神栖市には今後も継続して発展していくポテンシャルがあるので、大いに期待しています。

市民の目線から見えること、経験したこと、まちへの思いは人それぞれ。皆さんは神栖市誕生に何を思い、
どんな20年間を過ごしてきたのでしょう。この機会に振り返ってみませんか？